

令和5年度 第13回

# 新春の集い



日時 令和5年1月15日(日) 午後12時30分開会  
会場 前浜防災コミュニティセンター(前浜公民館)  
主催 鵬翔流吟友会

鵬翔流吟友会 理念

千詩万詠して心身を磨き

古今の風雅に親しみ遊びては

花鳥風月を友とし天恵に謝す

先人古哲の精神に学んでは

礼と節とを以つて人間陶冶に努める

自ら心魂洗い浄めて

真善美全き世界を求むるは

是、愛と誠の鵬翔会なり

鵬翔流吟友会 会詩

提携ていけい 師友しゆう 鷗盟おうめい を結むすび

偏ひとへに詩歌しいかを探さぐつて妙聲みょうせいを琢みがく

風雅ふうがの精神せいしん 承継しょうけいを誓ちかい

更さらに期きす吟道ぎんどう 百年ひゃくねんの誠まこと



ご挨拶

鵬翔流吟友会  
会長 梶田 鵬翔

明けましておめでとうございます。

昨年の「新春の集い」は、初めて、ここ前浜防災コミュニティセンターをお借りしての予定でしたが、コロナの為に中止となりました。この場所は南に海を望み、窓から一望すれば穏やかな緑豊かな自然が広がり、私たちの心を癒してくれます。さて、令和五年はどんな年になるのでしょうか！

コロナ感染症も三年経っても未だ終息に至っておりませんが、最近ではウイズコロナという言葉が使われ、次第に風邪のような感覚になって来きました。その為もあつてか、周りを見渡しても感染された人が多いのに驚きます。

油断大敵、今回は、しっかりと対策をし「一人も感染者を出さない」を心に刻み一年の節目の「新春」を寿ぎ祝って素晴らしい一年のスタートにしたいと思っております。そしていつもどんな時もマイナスをプラスに変えて、より健康で豊かな人生にしたいと思っております。

私達は詩吟に出会えて、日頃学ぶことの大切さを知っています。「学びて然る後に足らざるを知る」とはまさに至言です。

鵬翔流吟友会には、色とりどりの美しい花がいつぱい咲いています。これからも個性を生かし、長所を伸ばし、それぞれがそれぞれに咲かせたい花を元気に咲かせてみてください。それを応援させて頂くのが私の仕事かもしれないと最近特に思うようになりました。

最後になりましたが、本日の為に大変お忙しい中、また遠くからお越し頂きました。ご来賓の先生方に心より感謝を申し上げますと共に、これからも更なるご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。



受付案内

○

中西 大野  
山 村 匠 正  
村 彩 山 野  
鵬 光 匠 正  
泉 貴 翔  
川 添 柏 西 大  
村 鵬 井 山 野  
泉 雄 嗣 貴 正  
          (屏風運搬)



会場進行

○

笹岡 大野 横山 西山  
鵬 正 山 山 匠  
俊 翔 熙 匠 貴  
          光 光

音響

○

山中 鎌田  
清 田  
翔 耀  
          紫

記録広報

○

川添 戸田  
鵬 燁  
雄 紫

新春の集い式典

（敬称略）

開式挨拶

川添 鵬雄

鵬翔流吟友会理念朗読

先 導

笹岡 鵬俊

鵬翔流吟友会会詩合吟

先 導

中西 鵬鶯

新年挨拶 「明けまして・・・」

松木 鴻光

門下生挨拶

飯田 鵬祥

会長挨拶

梶田 鵬翔

来賓挨拶 六六庵吟詠会高知県本部 本部長

上本 竹永

高知県県議会議員・鵬翔流吟友会顧問

桑名 龍吾

高知市市会議員・鵬翔流吟友会顧問

竹村 邦夫

鵬翔流吟友会後援会 会長

近森 憲一

(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七)

(八)

お免状授与

介添

宝川  
蔵村  
瑤鵬  
光泉

第一部

合

吟

1 春の花を尋ぬ

作者

菅三品

高須・南国教室

2 寶船

作者

藤野君山

棧橋教室

3 立山を望む

作者

国分青厓

東雲教室

4 富士山

作者

石川丈山

蒔絵台・宇佐教室

第二部

来賓吟舞・会長吟詠

5 寶 船 作者 藤野君山 高知県県議会議員 桑名龍吾

〔敬称略〕

6 寶 船 作者 藤野君山 高知市市会議員 竹村邦夫

7 ネ オ ン 川 作詞 横井弘 花柳流 中岡あき

8 松 竹 梅 作者 松口月城 土佐麗陽会宗家 大崎麗蒼

9 寶 船 作者 藤野君山 六六庵吟詠会高知県本部 本部長 上本竹永

10 国宝紅白梅図屏風に寄す 作詞 梶田鵬翔 鵬翔流吟友会 会長梶田鵬翔

第三部

無伝の部

11 應制天の橋立 作者 釈希世 高須教室 柏井啓嗣

12 新 正 口 號 作者 武田信玄 東雲教室 宝蔵 正

第四部

初伝の部

13 春風

作者

白居易

宇佐教室

西村雄紫

14 青葉之笛

作者

松口月城

東雲教室

戸田燁紫

第五部

中伝の部

15 春日家に還る

作者

正岡子規

高須教室

山村彩光

16 春流

作者

北条時頼

高須教室

横山熙光

17 江南の春

作者

杜牧

東雲教室

宝蔵瑤光

18 富嶽

作者

乃木希典

東雲教室

松木鴻光

19 菊花

作者

白居易

長浜教室

森田蓮光

第六部

奥伝の部

20 松竹梅

作者

松口月城

南国教室

西山匠貴

第七部

皆伝の部

21 繪の島

作者

菅茶山

蒔絵台教室

松代怜翔

22 峨眉山月の歌

作者

李白

宇佐教室

大野正翔

23 梅花

作者

王安石

高須教室

山中清翔

24 啓蟄

作者

飯田鵬祥

栈橋教室

公文松翔

第八部

総伝の部

25 花朝澱江を下る

作者

藤井竹外

長浜教室

川村鵬泉

26 赤馬が関舟中の作

作者

伊形靈雨

南国教室

笹岡鵬俊

第九部

来賓舞・会長吟詠

27 春日 偶成

作者 夏目漱石 高須教室 川添鵬雄

28 獨 柳

作者 杜 牧 宇佐教室 中西鵬鶯

29 雪 梅

作者 方 岳 高須教室 飯田鵬祥

30 人生の並木道

作 詞 佐藤惣之助 花 柳 流 中岡あき

31 君 を 想 う

作 詞 土佐麗陽会宗家 大崎麗蒼

32 我 が 道

作 詞 仁木葉子

33 三百六十五歩のマーチ

鵬 翔 流 吟 友 会 会 長 梶 田 鵬 翔

閉会の挨拶

山中清翔